

## 基準制定を必要とする条例等の制定について

### 1. 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の 運営に関する基準について

(1) 確認を受ける施設・事業者に対しては、以下の事項が求められる。

- ①学校教育法、児童福祉法等に基づく「認可基準」を満たすこと。
- ②市町村の条例で定める運営に関する基準（運営基準）を満たすこと。（子ども・子育て支援法第34条第2項、第46条第2項）

(2) 市町村で定める運営基準の策定にあたって、国が定める基準（内閣府令）を踏まえ、策定する。

【国が定める基準】

#### ○ 従うべき基準

「従うべき基準」と異なる内容を定めることは認められず、その基準に従う範囲内で、地域の実情に応じた内容を定めることは許容

- 利用定員
- 小学校就学前子どもの適切な処遇の確保及び秘密の保持
- 小学校就学前子どもの健全な発達に密接に関連するもの

#### ○ 参酌すべき基準

「参酌すべき基準」を十分に参照したうえであれば、地域の実情に応じて、異なる内容を定めることは許容

- 上記以外の事項

### 相生市の対応方針

運営基準において、国が定める基準（内閣府令）によると、従うべき基準と参酌すべき基準が混在しているが、基本的には国の基準どおりとする。

→本市の実情に、国の基準と異なる内容を定める特別な事情や特性はないため。

## 2. 家庭的保育事業等の 設備及び運営 に関する基準について

### (1) 地域型保育事業の概要

○ 子ども・子育て支援新制度では、教育・保育施設を対象とする施設型給付・委託費に加え、以下の保育事業を市町村による認可事業（地域型保育事業）として、児童福祉法に位置付けた上で、地域型保育給付の対象とし、多様な施設や事業の中から利用者が選択できる仕組みとすることになっている。

◇小規模保育事業（利用定員6人以上19人以下）

・・・比較的小規模な家庭的保育事業に近い雰囲気の下、きめ細かな保育を実施 ※C型は 6～10人以下（経過措置あり）

◇家庭的保育事業（利用定員5人以下）

・・・家庭的な雰囲気の下、少人数を対象にきめ細かな保育を実施

◇居宅訪問型保育事業

・・・保護者・子どもが住み慣れた居宅において、1対1を基本とするきめ細かな保育を実施

◇事業所内保育事業

・・・企業等が主として従業員の子どものほか、地域において保育を必要とする子どもにも保育を提供

### (2) 家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準の制定にあたって

地域型保育事業では、保育需要の増大に機動的に対応できるよう、客観的な認可基準に適合することを求め、

①社会福祉法人・学校法人以外の者に対しては、経済的基礎、社会的信望、社会福祉事業の知識経験に関する要件を満たすことを求める。

②その上で、欠格事由に該当する場合や供給過剰による需給調整が必要な場合を除き、市町村が認可するものとする。（保育所に関する認可制度と同様）

地域型保育事業の認可基準は、国が定める基準を踏まえ、市町村が条例として策定する必要がある。（児童福祉法34条の16 第1項）

【国が定める基準】

○ 従うべき基準

「従うべき基準」と異なる内容を定めることは認められず、その基準に従う範囲内で、地域の実情に応じた内容を定めることは許容

- 職員の資格、員数
- 乳幼児の適切な処遇の確保、安全の確保、秘密の保持並びに児童の健全な発達に密接に関連するもの

○ 参酌すべき基準

「参酌すべき基準」を十分に参照したうえであれば、地域の実情に応じて、異なる内容を定めることは許容

- 上記以外の事項

**相生市の対応方針**

本市の実情に、国の基準と異なる内容を定める特別な事情や特性はないことから、基本的に国の基準を相生市の基準とするものとする。ただし、家庭的保育事業等についての保育従事者、職員数等は、今後、検討していきたい。

### 3. 支給認定に関する基準について

（1）概要

- 子ども・子育て支援新制度では、実施主体である市町村が、保護者の申請を受け、客観的な基準に基づき、保育の必要性を認定した上で、給付を支給する仕組み。
- 保育の必要性の認定に当たっては、①「事由」（保護者の就労、疾病など）②「区分」（保育標準時間、保育短時間の2区分。保育必要量）について、国が基準を設定。
- 根拠政令 子ども・子育て支援法第20条3項に準じて、条例制定。

(2) 認定について

- 保育の認定に当たっては、主にフルタイムの就労を想定した「保育標準時間」、とパートタイムの就労を想定した「保育短時間」の大括りな2区分を設定。
- この2つの区分に基づき、必要性の認定を受けた上で、それぞれの家庭の就労実態等に応じて保育必要量を設定。
- 原則として、市町村からの認定を受けた後で施設へ申込みすることが、教育標準時間認定のみを希望する場合には、保護者が入園内定の施設（幼稚園・認定こども園）を通じて、市町村へ認定申請を行い、支給認定証の交付を受ける仕組みとする。

【支給認定区分】

|      | 保育の必要性<br>なし                                                          | 保育の必要性<br>あり                                                                |
|------|-----------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 3歳以上 | <u>教育保育標準時間認定（＝1号認定）</u><br>【利用する主な教育・保育事業】<br>・幼稚園<br>・認定こども園（幼稚園部分） | <u>保育認定（＝2号認定）</u><br>【利用する主な教育・保育事業】<br>・保育所<br>・認定こども園（保育所部分）             |
| 3歳未満 | <u>認定なし</u><br>【利用する主な教育・保育事業】<br>・なし                                 | <u>保育認定（＝3号認定）</u><br>【利用する主な教育・保育事業】<br>・保育所<br>・認定こども園（保育所部分）<br>・地域型保育事業 |



| <u>保育短時間</u>         | <u>保育標準時間</u>         |
|----------------------|-----------------------|
| 1日、最大8時間<br>の保育利用が可能 | 1日、最大11時間<br>の保育利用が可能 |

(3) 保育を必要とする事由及び必要量について

|        | 国基準                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 相生市基準（案）                                                                                                       |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事由     | <p>①就労</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フルタイムのほか、パートタイム、夜間など基本的にすべての就労に対応（一時預かりで対応可能な短時間の就労は除く）</li> </ul> <p>②妊娠、出産</p> <p>③保護者の疾病、障害</p> <p>④同居又は長期入院等している親族の介護・看護</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・兄弟姉妹の小児慢性疾患に伴う看護など、同居又は長期入院・入所している親族の常時の介護、看護</li> </ul> <p>⑤災害復旧</p> <p>⑥求職活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・起業準備を含む</li> </ul> <p>⑦就学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業訓練校等における職業訓練を含む</li> </ul> <p>⑧虐待やDVのおそれがあること</p> <p>⑨育児休業取得時に、既に保育を利用している子どもがいて継続利用が必要であること</p> <p>⑩その他、上記に類する状態として市町村が認める場合</p> <p>※下線部は、現行の保育の実施に関する条例から新たに追加されたもの</p> | <p>国の基準どおり</p>                                                                                                 |
| 保育の必要量 | <p>○保育標準時間：１日１１時間まで<br/>（就労時間の下限は、１ヶ月あたり １２０時間定）</p> <p>○保育短時間：１日８時間まで<br/>（就労時間の下限は、<u>１ヶ月あたり４８時間以上６４時間以下の範囲で</u>、市町村が地域の就労実態等を考慮して定めること）</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | <p>○保育標準時間：１日１１時間まで<br/>（就労時間の下限は、１ヶ月あたり １２０時間定）</p> <p>○保育短時間：１日８時間まで<br/>（就労時間の下限は、<u>１ヶ月あたり６０時間とする</u>）</p> |

## 4. 放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準について

### (1) 放課後健全育成事業の概要

○ 放課後児童健全育成事業とは、保護者が日中就労等で家庭にいない小学生に対し、授業終了後の遊びや生活の場を与える事業である。

新制度において、その対象者が「おおむね10歳未満の児童」から「小学校に就学している児童」と明確化された。また、実施主体は市町村となり、事業の実施における設備及び運営についての基準を市町村が条例で定めることと規定された。

### (2) 放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準の策定にあたって、国が定める基準（内閣府令）を踏まえ、策定する。

【国が定める基準】

#### ○ 従うべき基準

「従うべき基準」と異なる内容を定めることは認められず、その基準に従う範囲内で、地域の実情に応じた内容を定めることは許容

- 従事する者
- 員数

#### ○ 参酌すべき基準

「参酌すべき基準」を十分に参照したうえであれば、地域の実情に応じて、異なる内容を定めることは許容

- 上記以外の事項

### 相生市の対応方針

本市の実情に、国の基準と異なる内容を定める特別な事情や特性はないことから、基本的に国の基準を相生市の基準とするものとする。ただし、運用に関しては、今後、検討していきたい。